



平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ファンケル

コード番号 4921 URL <http://www.fancl.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員

(氏名) 成松 義文

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理ユニット長

(氏名) 江上 克彦

TEL 045-226-1200

四半期報告書提出予定日 平成21年11月11日

配当支払開始予定日

平成21年12月7日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	47,683	△1.8	3,126	5.3	3,102	△1.0	1,542	14.6
21年3月期第2四半期	48,581	—	2,969	—	3,134	—	1,345	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	25.16	25.11
21年3月期第2四半期	21.96	21.95

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	101,500	76,144	74.4	1,163.85
21年3月期	85,309	71,242	83.0	1,155.74

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 75,496百万円 21年3月期 70,823百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	17.00	—	17.00	34.00
22年3月期	—	17.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	17.00	34.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	105,100	7.2	8,500	27.5	8,500	22.5	3,400	27.7	53.88

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
② ①以外の変更 有
- (注)詳細は、7ページ【定性的情報・財務諸表等】4.「その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第2四半期	65,176,600株	21年3月期	65,176,600株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	3,865,845株	21年3月期	3,896,949株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第2四半期	61,296,776株	21年3月期第2四半期	61,270,080株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 平成21年5月1日に公表いたしました通期の業績予測については、本資料において修正しております。
- 平成21年10月1日付でCMC Holdings Limitedに自己株式3,600,000株を売却しております。そのため、平成22年3月期の連結業績予想の1株当たり当期純利益は、当該自己株式の売却を加味した期中平均株式数を用いて算出しております。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。次期の見通しについては、6ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、新興国を中心とした海外経済の回復により製造業などで明るい兆しが現れ始めましたが、雇用環境の悪化が続いており、全体としては厳しい展開となりました。

このような状況の下、化粧品業界は個人消費の低迷により、全体として下降傾向が続いております。また、健康食品業界は一部に底打ちの兆しが見られるものの、依然として低調に推移しております。

当第2四半期連結会計期間の売上高は、株式会社ノイエスの新規連結によりその他事業が増収となったほか、化粧品関連事業も前年並みを確保しましたが、栄養補助食品関連事業が振るわず、23,618百万円（前年同期比0.9%減）となりました。損益面では、期初に掲げた全社的なコスト削減策を着実に実行し、営業利益は1,324百万円（前年同期比83.5%増）、売上高営業利益率は2.6ポイント改善の5.6%となり、経常利益は1,294百万円（前年同期比60.8%増）、売上高経常利益率は2.1ポイント改善の5.5%となりました。

四半期純利益は572百万円（前年同期比142.6%増）、売上高四半期純利益率は1.4ポイント改善の2.4%となりました。

平成22年3月期第1四半期に係る連結経営成績に関する定性的情報については、平成22年3月期第1四半期決算短信（平成21年7月30日開示）をご参照ください。

(1) 化粧品関連事業

売上高

化粧品関連事業の売上高は12,125百万円（前年同期比0.9%減）となりました。

	平成21年3月期 第2四半期連結会計期間		平成22年3月期 第2四半期連結会計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
ファンケル化粧品	9,575	78.3	9,480	78.2	△ 1.0
アテニア化粧品	2,472	20.2	2,271	18.7	△ 8.1
その他	183	1.5	373	3.1	104.0
合計	12,231	100.0	12,125	100.0	△ 0.9

	平成21年3月期 第2四半期連結会計期間		平成22年3月期 第2四半期連結会計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	6,293	51.5	6,172	50.9	△ 1.9
店舗販売	4,410	36.0	4,121	34.0	△ 6.5
卸販売他	1,527	12.5	1,830	15.1	19.9
合計	12,231	100.0	12,125	100.0	△ 0.9

ファンケル化粧品は、業界環境が厳しい中、前期にリニューアルしたマイルドクレンジングオイルなどが堅調に推移し、9,480百万円（前年同期比1.0%減）と小幅な減収にとどまりました。

アテニア化粧品は、夏のキャンペーンが計画通りの成果を上げられず、2,271百万円（前年同期比8.1%減）となりました。

販売チャネル別では、通信販売が6,172百万円（前年同期比1.9%減）、店舗販売は4,121百万円（前年同期比6.5%減）、卸販売他チャネルは中国、香港など海外向けが好調で1,830百万円（前年同期比19.9%増）となりました。

営業損益

損益面では、広告宣伝費などのマーケティング費用の効率化を進め、営業利益は1,280百万円（前年同期比62.3%増）、営業利益率は前年同期に比べ4.1ポイント改善し10.6%となりました。

(2) 栄養補助食品関連事業

売上高

栄養補助食品関連事業の売上高は6,761百万円（前年同期比3.8%減）となりました。

	平成21年3月期 第2四半期連結会計期間		平成22年3月期 第2四半期連結会計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	3,014	42.9	2,882	42.6	△ 4.4
店舗販売	1,951	27.8	1,902	28.2	△ 2.5
卸販売他	2,058	29.3	1,976	29.2	△ 4.0
合計	7,025	100.0	6,761	100.0	△ 3.8

製品面では、ビタミンなどの製品群の落ち込みで減収となりましたが、美時など中高年のお客様向けサプリメントやビューティサプリメントは好調に推移しました。

販売チャネル別では、通信販売は2,882百万円（前年同期比4.4%減）、店舗販売は1,902百万円（前年同期比2.5%減）、卸販売他チャネルは1,976百万円（前年同期比4.0%減）となりました。

営業損益

損益面では、売上の減少に加え原価率が上昇したことにより、営業利益は631百万円（前年同期比14.9%減）、営業利益率は前年同期に比べ1.3ポイント低下し9.3%となりました。

(3) その他事業

売上高

その他事業の売上高は4,731百万円（前年同期比3.5%増）となりました。

	平成21年3月期 第2四半期連結会計期間 (百万円)	平成22年3月期 第2四半期連結会計期間 (百万円)	伸び率 (%)
発芽米事業	863	709	△ 17.9
青汁事業	952	1,033	8.5
いいもの王国通販事業	1,951	1,889	△ 3.2
その他の事業	803	1,099	36.9
合計	4,571	4,731	3.5

発芽米事業は、業務用の低迷が続き、売上高は709百万円（前年同期比17.9%減）となりました。

青汁事業は、粉末タイプの売上が好調で、1,033百万円（前年同期比8.5%増）となりました。

いいもの王国通販事業は、冷夏の影響による季節商材の販売不振などで、1,889百万円（前年同期比3.2%減）となりました。

その他の事業は、肌着、雑貨などが振るわなかったものの、エステ事業を展開する株式会社ノイエスの新規連結により1,099百万円（前年同期比36.9%増）となりました。

営業損益

損益面では、発芽米の工場集約によるコスト削減効果などが寄与し、営業損失は前年同期に比べ69百万円縮小し203百万円となりました。

（ご参考：国内業態別店舗数）

	平成21年9月末	平成21年6月末比
ファンケル銀座スクエア	1	-
ファンケルショップ	19	+ 3
ファンケルハウス	88	△ 3
ファンケルハウスJ	68	-
元気ステーション	5	-
アテニアショップ	13	-
その他	3	-
合計	197	-

2. 連結財政状態に関する定性的情報

資産は、前連結会計年度末に比べ16,190百万円増加し、101,500百万円となりました。この要因は流動資産の増加5,870百万円及び固定資産の増加10,320百万円であります。流動資産の増加の主な要因は、有価証券が3,520百万円減少したものの、連結子会社の増加に伴い現金及び預金が9,596百万円増加したためであります。固定資産の増加の主な要因は、有形固定資産の増加426百万円、のれんが発生したことによる無形固定資産の増加9,502百万円であります。

負債は、前連結会計年度末に比べて11,288百万円増加し、25,355百万円となりました。この要因は、流動負債の増加11,298百万円及び固定負債の減少9百万円であります。流動負債の増加の主な要因は、連結子会社の増加に伴い短期借入金が2,582百万円、売上代金にかかる前受金が1,082百万円、少数株主に対する配当金の計上などにより未払配当金が6,049百万円それぞれ増加したためであります。固定負債の減少の主な要因は、リース債務の増加があったものの、親会社の役員退職慰労金の支給により固定負債のその他が減少したためであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて4,901百万円増加し、76,144百万円となりました。この主な要因は、自己株式申込証拠金の払込による増加4,140百万円及び四半期純利益1,542百万円の計上であります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末と比較して8.6ポイント低下し74.4%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は34,806百万円となり、前連結会計年度末より8,073百万円増加いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は4,758百万円(前年同四半期連結累計期間は3,164百万円の収入)となりました。この内訳の主なものは税金等調整前四半期純利益3,046百万円、減価償却費1,515百万円、たな卸資産の減少602百万円による増加と、法人税等の支払額1,332百万円などによる減少であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は259百万円(前年同四半期連結累計期間は4,601百万円の支出)となりました。これは主に、定期預金の払戻による収入1,500百万円、有価証券の売却及び償還による収入3,997百万円の収入と、有形固定資産の取得による支出795百万円、無形固定資産の取得による支出387百万円、関係会社株式の取得による支出529百万円及び連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出1,210百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は2,726百万円(前年同四半期連結累計期間は786百万円の支出)となりました。これは主に、自己株式申込証拠金による収入額4,140百万円と、配当金の支払額1,040百万円の支出によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては概ね計画通り推移しておりますが、Fantastic Natural Cosmetics LimitedおよびFantastic Natural Cosmetics (China) Limitedが連結子会社となったことにより、前回発表(平成21年5月1日)の業績予想に比べ、連結売上高は7,600百万円、連結営業利益および経常利益は1,200百万円の増加を見込んでおります。なお、連結当期純利益につきましては、前回発表数値に変更はありません。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

前第2四半期連結累計期間において、特別損失の「固定資産除却損」、「固定資産売却損」及び「その他」に含めていた「店舗閉鎖損失」は、金額的に重要性が増したことから、当第1四半期連結累計期間から区分掲記しております。

なお、前第2四半期連結累計期間の「店舗閉鎖損失」は40百万円であり、その内訳は「固定資産除却損」27百万円、「固定資産売却損」2百万円、「その他」10百万円であります。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,806	16,209
受取手形及び売掛金	8,955	9,967
有価証券	9,999	13,520
商品及び製品	3,466	3,060
仕掛品	58	68
原材料及び貯蔵品	3,035	3,041
その他	2,819	2,418
貸倒引当金	△142	△157
流動資産合計	53,998	48,128
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	22,471	21,650
減価償却累計額及び減損損失累計額	△11,455	△10,832
建物及び構築物(純額)	11,015	10,817
機械装置及び運搬具	5,586	5,385
減価償却累計額及び減損損失累計額	△4,276	△4,018
機械装置及び運搬具(純額)	1,309	1,366
工具、器具及び備品	7,203	5,961
減価償却累計額及び減損損失累計額	△5,847	△4,899
工具、器具及び備品(純額)	1,355	1,061
土地	10,971	10,971
リース資産	263	194
減価償却累計額及び減損損失累計額	△65	△33
リース資産(純額)	197	160
その他	7	51
有形固定資産合計	24,856	24,430
無形固定資産		
のれん	10,662	898
その他	2,813	3,075
無形固定資産合計	13,476	3,973
投資その他の資産	9,168	8,777
固定資産合計	47,501	37,181
資産合計	101,500	85,309

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,355	3,206
短期借入金	2,582	—
未払法人税等	2,252	1,477
賞与引当金	1,173	1,021
ポイント引当金	1,417	1,353
その他	11,976	4,400
流動負債合計	22,758	11,459
固定負債		
退職給付引当金	1,846	1,818
役員退職慰労引当金	70	60
その他	680	728
固定負債合計	2,597	2,607
負債合計	25,355	14,066
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,795	10,795
資本剰余金	11,706	11,706
利益剰余金	53,784	53,288
自己株式	△4,921	△4,960
自己株式申込証拠金	4,140	—
株主資本合計	75,504	70,828
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△3	△0
為替換算調整勘定	△4	△4
評価・換算差額等合計	△8	△5
新株予約権	274	310
少数株主持分	373	109
純資産合計	76,144	71,242
負債純資産合計	101,500	85,309

(2) 四半期連結損益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	48,581	47,683
売上原価	15,865	16,703
売上総利益	32,716	30,980
販売費及び一般管理費	29,747	27,853
営業利益	2,969	3,126
営業外収益		
受取利息	86	47
受取配当金	12	11
雑収入	117	85
営業外収益合計	216	144
営業外費用		
支払利息	0	4
為替差損	10	48
貸倒引当金繰入額	—	75
雑損失	41	39
営業外費用合計	51	168
経常利益	3,134	3,102
特別利益		
固定資産売却益	10	0
償却債権取立益	10	—
貸倒引当金戻入額	—	0
投資有価証券売却益	—	0
その他	24	0
特別利益合計	45	1
特別損失		
固定資産売却損	13	2
固定資産除却損	72	12
減損損失	178	14
店舗閉鎖損失	—	21
その他	50	6
特別損失合計	315	57
税金等調整前四半期純利益	2,863	3,046
法人税、住民税及び事業税	1,422	1,663
法人税等調整額	86	△163
法人税等合計	1,509	1,500
少数株主利益	8	3
四半期純利益	1,345	1,542

第2四半期連結会計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
売上高	23,828	23,618
売上原価	7,877	8,733
売上総利益	15,950	14,885
販売費及び一般管理費	15,229	13,561
営業利益	721	1,324
営業外収益		
受取利息	56	23
受取配当金	10	10
雑収入	41	53
営業外収益合計	108	87
営業外費用		
支払利息	0	4
為替差損	0	10
貸倒引当金繰入額	—	75
雑損失	24	26
営業外費用合計	25	117
経常利益	805	1,294
特別利益		
固定資産売却益	5	0
償却債権取立益	2	—
貸倒引当金戻入額	—	0
投資有価証券売却益	—	0
その他	23	0
特別利益合計	31	1
特別損失		
固定資産売却損	13	2
固定資産除却損	64	11
減損損失	—	1
店舗閉鎖損失	—	14
その他	10	△7
特別損失合計	88	21
税金等調整前四半期純利益	748	1,273
法人税、住民税及び事業税	302	710
法人税等調整額	205	△12
法人税等合計	508	698
少数株主利益	3	3
四半期純利益	235	572

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,863	3,046
減価償却費	1,482	1,515
減損損失	178	14
株式報酬費用	67	34
のれん償却額	63	172
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3	77
賞与引当金の増減額(△は減少)	22	△13
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△49	△15
退職給付引当金の増減額(△は減少)	89	28
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	6	10
受取利息及び受取配当金	△99	△59
支払利息	0	4
為替差損益(△は益)	△5	△9
投資有価証券評価損益(△は益)	—	6
固定資産売却損益(△は益)	3	2
固定資産除却損	72	12
売上債権の増減額(△は増加)	226	103
たな卸資産の増減額(△は増加)	735	602
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△403	△143
仕入債務の増減額(△は減少)	△214	546
その他の流動負債の増減額(△は減少)	36	148
その他の固定負債の増減額(△は減少)	△192	△76
その他	△24	31
小計	4,855	6,041
利息及び配当金の受取額	87	54
利息の支払額	△0	△4
その他の収入	0	—
法人税等の支払額	△1,779	△1,332
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,164	4,758

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,000	—
定期預金の払戻による収入	1,000	1,500
有価証券の取得による支出	△4,993	△1,998
有価証券の売却及び償還による収入	2,999	3,997
有形固定資産の取得による支出	△1,048	△795
有形固定資産の売却による収入	100	28
無形固定資産の取得による支出	△352	△387
投資有価証券の取得による支出	—	△1,014
投資有価証券の売却及び償還による収入	—	506
関係会社株式の取得による支出	—	△529
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△1,210
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	178
営業譲受による支出	△1,250	—
貸付けによる支出	△30	△1
貸付金の回収による収入	8	26
その他の支出	△92	△142
その他の収入	57	101
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,601	259
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△48	△155
社債の償還による支出	—	△180
自己株式の処分による収入	2	0
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式申込証拠金による収入額	—	4,140
配当金の支払額	△732	△1,040
その他	△7	△37
財務活動によるキャッシュ・フロー	△786	2,726
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	328
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,212	8,073
現金及び現金同等物の期首残高	24,060	26,732
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,847	34,806

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

前第2四半期連結会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

	化粧品 関連事業 (百万円)	栄養補助食品 関連事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	12,231	7,025	4,571	23,828	—	23,828
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	12,231	7,025	4,571	23,828	—	23,828
営業利益又は営業損失(△)	788	741	△272	1,257	(536)	721

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品

- (1) 化粧品関連事業……………各種化粧品の通信販売・店舗販売・卸販売
- (2) 栄養補助食品関連事業…各種栄養補助食品の通信販売・店舗販売・卸販売
- (3) その他事業……………雑貨・装身具類・肌着類・健康器具・家庭用雑貨の通信販売、発芽米事業、青汁事業他

当第2四半期連結会計期間(自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)

	化粧品 関連事業 (百万円)	栄養補助食品 関連事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	12,125	6,761	4,731	23,618	—	23,618
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	12,125	6,761	4,731	23,618	—	23,618
営業利益又は営業損失(△)	1,280	631	△203	1,708	(383)	1,324

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品

- (1) 化粧品関連事業……………各種化粧品の通信販売・店舗販売・卸販売
- (2) 栄養補助食品関連事業…各種栄養補助食品の通信販売・店舗販売・卸販売
- (3) その他事業……………雑貨・装身具類・肌着類・健康器具・家庭用雑貨の通信販売、発芽米事業、青汁事業、エステ事業他

前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	化粧品 関連事業 (百万円)	栄養補助食品 関連事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	24,809	14,491	9,281	48,581	—	48,581
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	24,809	14,491	9,281	48,581	—	48,581
営業利益又は営業損失(△)	3,029	1,681	△536	4,175	(1,206)	2,969

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品

(1) 化粧品関連事業……………各種化粧品の通信販売・店舗販売・卸販売

(2) 栄養補助食品関連事業…各種栄養補助食品の通信販売・店舗販売・卸販売

(3) その他事業……………雑貨・装身具類・肌着類・健康器具・家庭用雑貨の通信販売、発芽米事業、青汁事業他

3 会計処理の方法の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

当第1四半期連結会計期間より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)を適用しております。

上記の会計基準の適用に伴い、従来の方法によった場合に比べて、営業利益は化粧品関連事業75百万円、栄養補助食品関連事業84百万円、その他事業16百万円それぞれ減少しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

	化粧品 関連事業 (百万円)	栄養補助食品 関連事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	24,912	13,528	9,242	47,683	—	47,683
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	24,912	13,528	9,242	47,683	—	47,683
営業利益又は営業損失(△)	3,070	1,336	△397	4,009	(883)	3,126

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品

(1) 化粧品関連事業……………各種化粧品の通信販売・店舗販売・卸販売

(2) 栄養補助食品関連事業…各種栄養補助食品の通信販売・店舗販売・卸販売

(3) その他事業……………雑貨・装身具類・肌着類・健康器具・家庭用雑貨の通信販売、発芽米事業、青汁事業、エステ事業他

b. 所在地別セグメント情報

前第2四半期連結会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

全セグメントの売上高の合計額に占める日本の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

当第2四半期連結会計期間(自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)

全セグメントの売上高の合計額に占める日本の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

全セグメントの売上高の合計額に占める日本の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

全セグメントの売上高の合計額に占める日本の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

c. 海外売上高

前第2四半期連結会計期間(自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

当第2四半期連結会計期間(自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

前第2四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は平成21年10月1日付でCMC Holdings Limitedに自己株式を売却しておりますが、売却期日前の平成21年9月16日付で同社から自己株式の売却代金の払込を受けております。この結果、当第2四半期連結会計期間において、自己株式申込証拠金が4,140百万円発生し、当第2四半期連結会計期間末においては、自己株式申込証拠金が4,140百万円計上されております。